滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

2025. Winter NO. 107

湖響 KOKYO

Plus Art journey えいじゃに

滋賀県立文化産業交流会館

びわ湖芸術文化財団・舞台芸術情報誌

Contents

オペラへの招待『劇場支配人』『道化師』…… P2・3
びわ湖ホール声楽アンサンブル　Report&News… P4〜6
冬・春公演　Pick up!! …… P7
プロデュースオペラ『トゥーランドット』上演に寄せて …… P8
びわ湖ホール長期休館のお知らせ …… P9
えいじゃに・滋賀県立文化産業交流会館より …… P10・11
劇場・舞台芸術の力 …… P12

びわ湖ホール声楽アンサンブル〈田中信昭氏追悼公演〉「愉しく、美しく、すてきな合唱を永遠に」より（2025年9月6日）

モーツァルト作曲　日本語台詞ドイツ語上演・日本語字幕付　レオンカヴァッロ作曲　イタリア語上演・日本語字幕付

びわ湖ホール
オペラへの招待

劇場支配人　道化師

〈びわ湖ホール　オペラへの招待〉は、びわ湖ホール声楽アンサンブルがキャストを務めオペラ鑑賞が初めての方から大好きな方まで、どなたでもオペラをお楽しみいただけるシリーズです。今回は、劇場を舞台にしたモーツァルトの喜劇とレオンカヴァッロの悲劇を2本立てで上演します。

特に『劇場支配人』はモーツァルトの作品のなかでも上演機会の少ない作品で、今回は貴重な機会です。また、『道化師』では、カニオ役を当たり役とする福井 敬が出演するのも話題です。指揮は、ドイツをはじめ世界を舞台に活躍するキンボー・イシイ、演出はびわ湖ホールプロデュースオペラ、オペラへの招待など、数々のオペラ演出を手掛ける中村敬一が務め、本格的な公演をお贈りいたします。

『劇場支配人』の楽しみ方

いつの世にも「あるある」の楽屋の裏話
～音楽付き喜劇『劇場支配人』　中村敬一（演出家）

1786年 皇帝ヨーゼフ二世の妹マリア・クリスティーナとその夫アルベルト・カジミール・フォン・ザクセン＝テシェンのウィーン訪問の際の歓迎として、シェーンブルン宮殿内のオランジュリー（熱帯植物のある大温室）で祝宴を開くことになり、その出し物として、ヨーゼフ二世は音楽作品をアマデウス・モーツァルトに依頼した。依頼を受けたアマデウス・モーツァルトは、ちょうど『フィガロの結婚』の作曲中であったが、すぐさまこの『劇場支配人』に取りかかり、二週間ほどの短期間で完成させた。この歓迎の祝宴では、アントニオ・サリエリのオペラ・ブッファ『まずは音楽、お次が言葉』も続けて上演されており、ドイツの音楽劇とイタリアのオペラが競い合う形となった。

『後宮からの逃走』『魔笛』といった、ドイツ語で書かれたモーツァルトのジングシュピール（歌芝居オペラ）と比べると、たわいのない音楽劇といった体裁だが、そこから垣間見える役者やプリマたちの駆け引きは、オペラの世界の変わらぬ裏話として面白いだけでなく、オペラ・セリアのプリマ・ドンナ・アリアを思わせるヘルツ夫人のアリアもドイツ語のスーブレット（快活で初々しい役）の軽快なアリアも、自分こそ一番と競い合う重唱も、短時間で書き飛ばしたとは思えぬほどの音楽の妙に溢れている。

この頃にはシカネーダーのような興行主がウィーンの城壁の外の市井の劇場で一般の市民のためにパロディー・オペラなどを提供していた。まさにアマデウス・モーツァルトも、この後シカネーダーの依頼に応えて『魔笛』を生み出すことになる。宮廷の劇場で貴族のためにオペラを提供するだけでは無く、既にお金になるオペラが生まれる時代を迎えていたのだ。

『劇場支配人』はもちろん、宮廷の催し物のために依頼された機会音楽ではあるが、ここに描かれているプリマたちの売り込みは、まさに時代を映し出している。なんでも以前はスーブレットの軽やかなソプラノがブッファの主人公として、もてはやされていたのが、この頃には本格的でドラマティックなソプラノが後世のプリマ・ドンナ・オペラの先駆けとして人気を集め始めていた。繰り広げられる歌い手たちの売り込み合戦も、そんな「売れるオペラ」の時代の裏話が反映されている。

話は新しいプロダクションを立ちあげようとする劇場支配人の処へ契約を取るべく集まる役者、プリマ・ドンナ、そのスポンサーたちの売り込み合戦。最後には芸術家たるものお互いを尊重することが大事と声を合わせるが…。

時代が変わっても変わらない歌い手たちの売り込み合戦が面白く描かれている。

海外のオペラハウスでも、台詞は、それぞれの時代と場所での「あるある」を加えて翻案されているようだ。今回は時代を現代に寄せて、今でもあり得る「あるある」の楽屋の裏話をびわ湖ホールの舞台から垣間見ていただければと思っている。

プロフィール　**中村敬一（演出家）**　Nakamura Keiichi

武蔵野音楽大学・同大学院で声楽を専攻、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属し、オペラスタッフとして活躍。文化庁派遣在外研修員としてウィーン国立歌劇場にてオペラ演出を研修、びわ湖ホールでは「オペラへの招待」（旧・青少年オペラ劇場）、「プロデュースオペラ」など多数演出。第23回ジロー・オペラ賞新人賞、2001年大阪舞台奨励賞を受賞。国立音楽大学招聘教授、大阪音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。

キャスト　**『劇場支配人』**

24日・26日		25日・27日	
ヘルツ夫人 脇阪法子*	シルバークラング嬢 高田瑞希	ヘルツ夫人 藤村江李奈*	シルバークラング嬢 熊谷綾乃*
フォーゲルザング 古屋彰久*	ブフ 林 隆史*	フォーゲルザング 奥本凱哉	ブフ 平 欣史*
ブファイル夫人 山田結香子	クローネ夫人 岩石智華子	ブファイル夫人 小林由佳	クローネ夫人 山内由香

両日

フランク 有ヶ谷友輝	アイラー 佐貫遥斗	ヘルツ 五島真澄*	マドモアゼル・ルイーズ（踊り子） 徳田あさひ

＊びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー

びわ湖ホール オペラへの招待

モーツァルト作曲『劇場支配人』レオンカヴァッロ作曲『道化師』

2026年1月24日（土）・25日（日）・26日（月）・27日（火）
全日14:00開演 [中ホール]

一般6,050（5,500）円　青少年（24歳以下）2,200円　シアターメイツ1,100円　チケット発売中

指　揮：キンボー・イシイ
演　出：中村敬一
管弦楽：日本センチュリー交響楽団
合　唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル

指揮 キンボー・イシイ　インタビュー

キンボー・イシイは、2008年8月 びわ湖の夏・オペラ ビエンナーレ『フィガロの結婚』以来のびわ湖ホールでのオペラ指揮となります。ヴァイオリンをパリリやジュリアード音楽院のディレイに学び、ボストン交響楽団などアメリカのオーケストラで副指揮者を務め、キリル・ペトレンコ（現ベルリン・フィル首席指揮者）が音楽総監督を務めたベルリン・コミッシェ・オーパーの首席カペルマイスターなどドイツの歌劇場で活躍してきた名匠です。今回の2本のオペラを通して「初心者がオペラに入門する道筋をつけることができる」と意欲を示します。

今回の上演を見れば、オペラとはどのようなものかがわかります。

プロフィール

キンボー・イシイ（指揮）
Kimbo Ishii

ベルリン・コミッシェ・オーパーの首席カペルマイスターを経て、マグデブルク劇場音楽総監督、大阪交響楽団首席客演指揮者、ドイツ・シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州立劇場音楽総監督などを歴任。国内外のオーケストラの公演の他、びわ湖ホール『フィガロの結婚』、関西二期会『魔弾の射手』などオペラ公演を指揮する。ウィーン市立音楽院でヴァイオリンをワルター・パリリに、ジュリアード音楽院でヴァイオリンをドロシー・ディレイに学んだのち指揮者に転向。ボストン交響楽団とニューヨーク・フィルの同時契約副指揮者を務めた。ニコライ・マルコ国際指揮者コンクール入賞、「第9回斎藤秀雄メモリアル基金賞」指揮部門受賞。

―今回の演目を選んだポイントをお教えいただけますか

『劇場支配人』は、2026年の生誕270年にちなんで、モーツァルトの作品を、という依頼を受けた時に、このプログラムを思いつきました。

この作品は、ウィーンのシェーンブルン宮殿からの依頼によって書かれた作品で、その時は、前半に『劇場支配人』を、後半にサリエリ作曲の『まずは音楽、お次が言葉』というドイツ語とイタリア語の2本立て上演だったということです。

そこで、時間的にも短く、刺激的な内容をもつ、イタリアのヴェリズモ・オペラ（庶民の生活を題材とした作品）の傑作レオンカヴァッロの『道化師』を組み合わせました。

―この2つの作品を組み合わせたことの狙いは

この企画はオペラ入門ですから、短時間でしかも聴いている方のテンションを落とさないようにすることを一番に考えました。モーツァルトの劇場支配人は、実際はプロデューサーに近い存在です。

彼が決めるオペラへの出演を巡って、歌手とプロデューサーが繰り広げるドラマになっています。このようにしてオペラの出演者が決まるということが裏話を交えて歌い演じられます。もともとは、作曲時に流行っていた演劇や社会のパロディが盛り込まれていたようですが、現代の観客にもわかるように演出の中村敬一さんが、新たな台本を作ってくださいました。

―休憩後には、『劇場支配人』から約100年後に作曲された『道化師』が上演されますが

この間、オペラの題材も神話や王、貴族たちの物語から、一般市民の日常をリアルに描く、イタリアのヴェリズモ・オペラなどが生まれるなど、変わっていきました。

『道化師』はヴェリズモ・オペラの代表的な作品で、主人公が心理錯綜して現実と劇中劇の世界の違いを踏み越えて、ついには殺人を起こしてしまうという話です。

まるでテレビや映画などサスペンスドラマのようで、観ている人も思わず感情移入してしまうわかりやすい作品です。

―『劇場支配人』の音楽的な聴きどころは

『劇場支配人』は、確かに演劇的な作品ですが、音楽はさすがモーツァルトです。どの曲も素晴らしいし、個人的にも大好きです。ソリストは4人、ソプラノ、テノール、バス。ソプラノは2人で、1人は、リリック（やや高い音を出し、中音域が豊かな）でドラマティックに聴かせて、もう1人はスーブレットとコロラトゥーラを聴かせるという2人の違った声質を披露します。またソプラノ2人とテノールの三重唱、フィナーレでは4人に合唱が加わります。そこで、オペラ歌手がどのように歌うのかもわかるわけです。

―そして、世界中で数多く上演されている『道化師』が続きます

この作品には、プロローグや「衣裳をつけろ」、「鳥の歌」などイタリアオペラの魅力を申し分なく味わうことのできる歌が詰め込まれています。また、一座の到着を示すファンファーレと太鼓や合唱など、ワクワクするような瞬間も味わうことができます。

オペラを全く知らなくてもこの上演を聴けば、どういったものか一通り、わかるようになっているので、多くの人に来ていただきたいです。

『道化師』の稽古風景

キャスト　**『道化師』**

24日・26日		25日・27日	
カニオ 福井 敬**	ネッダ 船越亜弥*	カニオ 谷口耕平*	ネッダ 山岸裕梨
トニオ 西田昂平	ベッペ 福西 仁	トニオ 市川敏雅*	ベッペ 島影聖人*
シルヴィオ 大野光星		シルヴィオ 芳賀拓郎	

＊びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー　＊＊客演

関連企画

● オペラ『劇場支配人』『道化師』講座

上演に先立ち、作品に親しみ、公演をより楽しんでいただく講座を開催いたします。作品を初めて鑑賞される方はもちろん、より深く楽しみたい方にもおすすめの講座です。

2026年1月12日（月・祝）14:30～16:30
講師：東条碩夫（音楽評論家）　会場：コラボしが21 3階大会議室
チケット料金：1,650円　自由席　チケット発売中

● 「プレトーク・マチネ」

公演に先立ち、指揮者、演出家が聴きどころや見どころをたっぷりとご紹介いたします。

2025年12月21日（日）10:00～12:00（終了予定）びわ湖ホール 小ホール
出演：キンボー・イシイ（指揮）、中村敬一（演出）　ほか
※料金無料　事前申し込み不要、当日直接会場までお越しください。
お問い合わせ：びわ湖ホール事業部（077）523-7152（10:00～17:00、火曜休館）

びわ湖ホール声楽アンサンブル

Report & News

Report

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」開・閉会式に出演しました。

滋賀県全域で2025年9月28日～10月8日の会期で行われた第79回国民スポーツ大会（国スポ）、2025年10月25日～27日に行われた第24回全国障害者スポーツ大会（障スポ）の総合開会式、総合閉会式の祝典にびわ湖ホール声楽アンサンブルが式典音楽隊として出演しました。

また、両開会式の指揮者をびわ湖ホール芸術監督の阪 哲朗が務めました。

会場となった平和堂HATOスタジアムのバックスタンドに並び、大会のテーマ曲「シャイン！」、「琵琶湖周航の歌」などを演奏。滋賀県旗・彦根市旗掲揚の際に「滋賀県民の歌」を歌いました。中でも声によるファンファーレは圧巻でした。

また、障スポ総合開会式で国歌を斉唱しました。

バックスタンド中央上部に整列したびわ湖ホール声楽アンサンブル
写真提供：京都新聞社

開・閉会式で衣裳が話題に。近江上布を美しく染める「侵染」

開・閉会式で話題を集めた衣裳は、大津市の成安造形大学の空間デザイン領域・コスチュームデザインコースと連携して制作しました。小川富菜さんをリーダーに黒瀬 望さん、宮下 樹さんらのチームが制作。

今回は滋賀県の名産である薄手の近江麻を使用して、古代宮廷衣裳をイメージしました。

近江上布の組合の方々から長さ100メートルの布の提供を受け、制作を行いました。

「滋賀の象徴である、琵琶湖の景色を想像した色にしました。湖畔の緑から琵琶湖の水色、そして空の青までを1枚の布にグラデーションする形で染め上げました」と小川さんはデザインコンセプトを話しました。

また、黒瀬さんは「今年の暑さも考慮して、あまり体にフィットするのではなく、風になびくよう薄い布をマントのように仕立てて風になびいても美しく見えるようにしました」

デザインのモチーフとなった琵琶湖をバックに衣裳をつけたメンバー

「今回は侵染（浸染）という染色法で染めました。染めるべき部分をデザイン通りに的確に染めるのは難しかったですが、透けていて光を受けると色が変化していくニュアンスを出すことが出来ました」と宮下さんは出来栄えを話しました。

個々の美しさに16人並ぶとよりスケール感が加わり、式典の中でも映えました。

「昔の大津の宮に声楽隊がいたらどんな衣裳を着ているだろうかと想像を膨らませて制作しました」と小川さんは話しました。

令和7年度「ふれあい音楽教室」を実施しました。

2025年9月5日から、「ふれあい音楽教室」を県内の小学校25校で行いました。

びわ湖ホール声楽アンサンブルのメンバー2名がピアニストと小学校に伺い、音楽の授業を行う取り組みです。子どもたちへの合唱の指導や、オペラアリアや重唱を中心としたミニコンサート、質問コーナーなど学校の要望に合わせて楽しく学べるプログラムを用意しました。

三笠宮家 彬子さまが「ふれあい音楽教室」を見学

わたSHIGA輝く国スポで滋賀を訪れた三笠宮家彬子さまが、野洲市の北野小学校を訪問され、ふれあい音楽教室を見学されました。授業の中で彬子さまも児童といっしょに「ふるさと」を歌われました。

参加した児童に「（彬子さまから）普段はこういう授業をしたことがありますか」などと質問されました。

また、授業を行ったびわ湖ホール声楽アンサンブルの福西は「毎年、たくさんの学校にいってらっしゃるのですかと声を掛けられ、さらに声楽アンサンブルの活動について尋ねられました」と話しました。

「ふれあい音楽教室」を見学された彬子さま（中央右）と話す、声楽アンサンブルのメンバーと児童たち。

News

びわ湖ホール声楽アンサンブル 第82回定期公演 イタリア・オペラの花束を～林 康子を迎えて

今回の定期公演は、1972年にミラノ・スカラ座デビューし、世界中の歌劇場でプリマとして活躍したソプラノの林 康子を監修に迎えます。

後進の指導にも邁進してきた林は、びわ湖ホールでは、2021年度から2025年度まで計4回、声楽アンサンブルのメンバーを対象に実施した「声楽曲研修」で講師を務めました。

メンバーの個性を熟知している林が、その魅力を引き出し、成長につなげるのに適切な曲目として選んだのは、自身も何度も取り組んできた、チマローザ、モーツァルト、ドニゼッティ、ヴェルディによる名オペラの重唱やアンサンブル。林のもとで磨き揚げた表情豊かなアンサンブルをどうぞお楽しみください。

当日の案内役も、林自身が務めます。オペラ歌手として唯一無二の経験を持つ林のトークは必聴です。

構成・お話：林 康子
指揮：大川修司（びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者）
独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル
ピアノ：越知晴子

［曲目］チマローザ：歌劇『秘密の結婚』より 第2幕フィナーレ
モーツァルト：歌劇『ドン・ジョヴァンニ』より 第1幕フィナーレ
歌劇『コジ・ファン・トゥッテ』より 第1幕フィナーレ
ドニゼッティ：歌劇『愛の妙薬』より 第1幕フィナーレ
ヴェルディ：歌劇『イル・トロヴァトーレ』より
マンリーコ、レオノーラ、ルーナ伯爵の三重唱

2026年3月21日（土）14:00開演
［小ホール］

一般3,300（2,750）円　青少年（24歳以下）1,650円　チケット発売中

『びわ湖ホール声楽アンサンブル 第82回定期公演に寄せて』　林 康子

この度は、フィナーレばかりの異例なプログラムを企画しました。

いつも研修で教えているアリアは、実はオペラ（3時間程度）のほんの一部で、一番長いのはフィナーレなのです。

今回は、めったにない機会ですので、思い切り、これでもかという量を歌うことにより、持続力をつけながら、数多い重唱の正確な音程やバランスをとる力を、独唱部分では役を生き生きと表現できる力をつけることを目的とします。

ちなみに、演出面は声楽アンサンブルの各人が衣裳・道具を持ち寄り、自主的に工夫いたします。

第81回定期公演　モーツァルト作曲「レクイエム」を行いました。

11月21日（金）＝追加公演、11月22日（土）　びわ湖ホール 小ホール（両公演とも）
11月24日（月・休）　東京公演vol.16　東京文化会館 小ホール

阪 哲朗が21年ぶりの定期公演に得意のモーツァルトで登場 エレクトーンとの共演も今後の表現の可能性を感じさせる

びわ湖ホール公演

今回は、阪 哲朗が芸術監督就任後、びわ湖ホール声楽アンサンブルの定期公演を初めて指揮、得意とするモーツァルト作曲の「レクイエム」をメインに、その先輩となる古典派の作曲家ハイドンの大作オラトリオ「天地創造」からの抜粋というプログラムを組みました。

阪によるこれまでのモーツァルトオペラの演奏の高い評価から、22日のチケットは完売、急遽前日の21日に追加公演を行いました。また東京公演もほぼ満席という盛況ぶりでした。

この公演に臨むにあたり阪は、「これまでのオペラ公演でメンバー各人の声の特徴や課題を理解してきたが、そのうえでポジティブな面を前面にまとめていけるか、オペラ以外の公演で共にするのは初めてでとても楽しみ」と話した。

今回取り上げた2曲は阪が高校時代に初めて指揮した思い入れのある曲で、充実した演奏に聴衆から大きな拍手が送られました。

東京公演

小倉里恵によるエレクトーンの演奏も好評を得た。

また、コロナ禍で出会い、オーケストラパートの実演に「オケが要らないのでは」という可能性を感じたというヤマハの電子オルガン「エレクトーン」を使用、ピアノだけでは表現できない音の表現は音楽関係者を驚かせ、今後の可能性を感じさせました。

※前号8ページ写真キャプションのうちファイエッヒはファイツヘッヒハイムの誤りでした。

Report

びわ湖ホール声楽アンサンブル〈田中信昭氏追悼公演〉
「愉しく、美しく、すてきな合唱を永遠に」

■びわ湖ホール声楽アンサンブルとの約20年にわたった共演

2024年9月に96歳で逝去された〈びわ湖ホール声楽アンサンブル名誉指揮者〉田中信昭氏の追悼公演を、2025年9月6日に大ホールで行いました。そして、同日付で田中氏に〈びわ湖ホール声楽アンサンブル永久名誉指揮者〉の称号を贈りました。

日本の合唱音楽のパイオニアとして約70年以上活躍された田中氏とは、2005年11月「びわ湖ホール声楽アンサンブル第29回定期公演」での共演以来、メンバーは「信昭先生」と呼び慕い、音楽する喜びを分かち合ってきました。

2018年に名誉指揮者に就任、声楽アンサンブルの発展と滋賀県の文化振興に尽力いただきました。

ピアノを務めた中嶋 香氏(中央)

■日本の合唱界に遺した偉大な足跡を振り返るプログラムを披露

コンサートには、びわ湖ホール声楽アンサンブル専属メンバーと、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバーからなる26人が出演。ピアノは、田中氏夫人でピアニストの中嶋 香氏が務めました。

プログラムは、ルネサンス期のモンテヴェルディに始まり、モーツァルト、シューマンなどのドイツの作曲家の作品を披露。田中氏は東京混声合唱団を結成し、多くの日本人作曲家に委嘱し、柴田南雄、林 光、武満 徹、清水 脩、間宮芳生、野平一郎、池辺晋一郎、三善 晃とまさに20世紀の代表的な作曲家の名曲が並びました。

新作について語る権代敦彦氏(左)と中嶋氏

■合唱に捧げた人生。声楽アンサンブルとの次なる共演も楽しみに

コンサート冒頭では、中嶋 香氏が、田中氏が亡くなる12日前に元気に指揮したこと、亡くなった際もうれしそうな、面白い人生だったなという表情だったことを話しました。

そして「私たちはなぜ音楽をするのか、人と人が集って行う合唱とは何か、お互いに影響を与えながら変化し、ともに歌うことがいかに大切か」という信念を持って活動し、びわ湖ホール声楽アンサンブルとの共演を「歌い合う合唱の原点に還るとても大切な時間でした」と生前を振り返りました。

また(田中氏が存命なら)2025年の春に予定されていた公演に向けて「今度、何をやろうか、彼らにふさわしい曲を考えなくては、と嬉しそうに話していました」と生前の田中氏を振り返りました。

■作曲活動を田中氏によって拓かれた権代敦彦が新曲「野ばら」を捧げる

そして、今回、世界初演となった権代敦彦『野ばら-hybrid op.203』について作曲者の権代氏が登壇、「僕のop(作品番号)1は、桐朋学園の高校時代に田中さんに初演していただいた女声合唱のための『アヴェ・マリア』で、以来、16曲の作品を初演していただきました。そのピアノはもちろん中嶋さんです。今日、世界初演していただける曲は、田中さんがお亡くなりになった数日後にお宅に伺ったところ、リビングにゲーテの詩集が置かれ、香さんから田中さんは野ばらの良い編曲が欲しいとずっと言ってらしたとお聞きして、そこで『良い編曲』と何度も思いながら書いたのが『野ばら-hybrid op.203』です。編曲という言葉に抵抗があって、別々の違うものをドッキングさせて換骨奪胎して、僕なりの編曲という概念に対する自分なりの『野ばら』を先生に捧げようと思いました。良い編曲と言ってくださるかはわかりませんが、先生に届きますように」と話しました。

メインロビーでのパネル展示

公演に合わせて田中氏との思い出をふりかえるパネル展示をメインロビーで8月10日から9月1日、そして公演当日には、大ホールホワイエで行いました。

巡回オペラ『泣いた赤おに』

地域の小学校等に出かけ、子どもたちに舞台芸術の魅力を伝える「学校巡回オペラ」は、声楽アンサンブルと舞台技術スタッフを擁するびわ湖ホールならではの企画です。

各学校の体育館に舞台装置や衣裳、照明機材を運び込み、さながらオペラハウスのように中村敬一の演出で『泣いた赤おに』を上演しました。

2025年度は滋賀県内をはじめ、文化庁の委託を受けて京都府・福井県・石川県・富山県の小学校等、計28校、約7,000名の子どもたちにオペラの舞台を届けました。

ハロウィン ロビーコンサート

2025年10月30日　メインロビー

恒例の「ハロウィン ロビーコンサート」を、びわ湖ホールのメインロビーで行いました。今年の第1回びわ湖ホールピアノコンクールで第1位を獲得した小塩真愛が小塩真優とピアノ連弾で「魔法使いの弟子」などを演奏。出演者も観客も仮装してハロウィンらしいひと時を過ごしました。「Trick or Treat!」の合言葉で、仮装した子どもたちにお菓子がプレゼントされました(株式会社パレット提供)。

びわ湖さがみねシスターズ オータムコンサート

11月10日　メインロビー

3月に好評をいただいたびわ湖さがみねシスターズのロビーコンサート(さがみねシスターズは、出演するびわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー船越亜弥(ソプラノ)と山際きみ佳(メゾソプラノ)の出身校・愛知県立芸術大学が長久手市岩作三ケ峰(さがみね)にちなんで結成したユニット)です。

今回は、出演を予定していた船越が体調不良のため出演ができなくなり、山際と植松さやか(ピアノ)の出演となりました。

プログラムもモーツァルト『フィガロの結婚』"恋とはどんなものかしら"やサティ「ジュ・トゥ・ヴ」など変更された6曲を山際が歌い、会場から大きな拍手を受けました。

2026年 冬・春公演 Pick up!!

気軽にクラシック42
栗原未和　ソプラノ〈愛のうた〉

栗原未和

実力派アーティストの演奏による1時間のコンサート。クラシック音楽の楽しさを満喫できる、文字通り気軽に楽しめる公演をお贈りします。

びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバーの栗原未和が「愛」をテーマに、大切な人を想って歌います。植松さやかの作品とピアノもお楽しみに。

出演:栗原未和(ソプラノ)、植松さやか(ピアノ)

[曲目]
クィルター:楽の音、優しい声が途絶えても
コープランド:牧歌
リスト:「愛の夢」第3番「おお、愛せる限り愛せよ!」
モーツァルト:オペラ『ドン・ジョヴァンニ』より　仰らないで、愛しい人よ
中田喜直:歌曲集《星とたんぽぽ》より　おさかな
歌曲集《"マチネ・ポエティク"による四つの歌曲》より
さくら横ちょう、髪
植松さやか:ひとりの人　ほか

2026年2月7日(土) 14:00開演 [小ホール]

一般1,100円　チケット発売中

子どものための管弦楽教室 「オーケストラって楽しい!」

前回の指揮者体験コーナーの様子

2008年より実施してきた好評のシリーズ。子どもたちが楽しみながら学べるだけでなく大人も一緒にオーケストラについての知識や理解を深められる公演です。

今回は、第1回びわ湖ホールピアノコンクールA部門(小学生以下)で1位を獲得した牧嶋慧大が出演。また、ボディパーカッションでオーケストラと遊ぶ企画や指揮者体験コーナーなど観客も一緒に参加できる多彩なプログラムを用意しています。

指　揮:藤岡幸夫　管弦楽:関西フィルハーモニー管弦楽団
ピアノ:牧嶋慧大　司　会:空井仁美

[曲目]
モーツァルト:『フィガロの結婚』より序曲、キラキラ星変奏曲、トルコ行進曲
ドリープ:組曲『コッペリア』より「マズルカ」(指揮者体験コーナー)
宮川 彬:シンフォニック・マンボNo.5,
ホルスト:組曲「惑星」より「木星」　ほか

2026年3月22日(日) 14:00開演 [大ホール]

大人2,200円　子ども1,100円(4歳～中学生) ※4歳から入場可　チケット発売中

北村朋幹　20世紀のピアノ作品vol.3 ～武満徹のピアノ作品～

©TAKA MAYUMI
北村朋幹

ソロ・リサイタルをはじめ、オーケストラとの共演、室内楽、古楽器による演奏活動を、時代を自由に行き来するレパートリーで行い、高い評価を得ているピアニストの北村朋幹。

2022年10月、びわ湖ホール及び、滋賀県立美術館で行った「北村朋幹20世紀のピアノ作品」で第22回(2022年度)佐治敬三賞を受賞しました。

2025年2月に続くシリーズ第3回として今回は、2026年に没後30周年を迎える武満 徹のピアノ曲を取り上げます。

出演:北村朋幹(ピアノ)

[曲目]
遮られない休息、ピアノ・ディスタンス
閉じた眼―瀧口修造の追憶に―
雨の樹 素描、リタニ―マイケル・ヴァイナーの追憶に―　ほか

2026年3月28日(土) 15:00開演 [小ホール]

一般3,300円　青少年(24歳以下)1,650円　チケット発売中

第2回　びわ湖ホールピアノコンクール

映像審査が終了。予選、本選が行われます。

昨年度、初めて行ったびわ湖ホールピアノコンクール。国籍・居住地等不問。A部門(小学生以下)、B部門(高校生以下)、C部門(一般＝年齢不問)の3部門で募集。特に参加資格の上限・下限がなく、課題曲の自由度が高いこと、特に優秀な方にはびわ湖ホールの主催公演にて演奏の機会が与えられることから、内外のコンクールに入賞経験を持つ参加者も集い、高いレベルの競演となりました。

第1回目の受賞者は「びわ湖の春 音楽祭」やびわ湖ホールロビーコンサート、さらに2026年3月開催の子どものための管弦楽教室などでの演奏機会も与えられ、好評を博しています。

今回も審査員は昨年度と同じ、阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督/指揮者)、上野 真(京都市立芸術大学教授/ピアニスト)、土居知子(京都女子大教授/ピアニスト)。

映像審査から112名の申し込みがあり、12月20日、21日の予選を経て、いよいよ本選となります。

昨年のC部門で1位となった三原有紀

本選は2026年2月1日(日) 11:00開始 [大ホール]　入場料1,100円

※詳しくは、びわ湖ホール公式ホームページでお知らせいたします。

Topics

久末航さんが滋賀県庁に三日月知事を表敬訪問。本年度の滋賀県文化賞を受賞しました。

ピアニストの久末 航さんが、5月にベルギーで行われたエリザベート王妃国際コンクールのピアノ部門で第2位に入賞しました。

その受賞報告のため滋賀県庁に三日月大造知事を10月23日に表敬訪問しました。知事は「滋賀出身の方が世界で活躍することは喜ばしい」と祝福しました。

久末さんは「これまでも滋賀の皆様には暖かく応援していただき本当に感謝しています。今後は世界を見据えた演奏活動に注力したい」と話しました。久末さんは県立膳所高校を卒業後、ドイツの音楽大学に進学。現在はベルリンを本拠にしています。

また、県民の文化の向上発展に対して顕著な功績のある方を表彰する滋賀県文化賞の令和7年度の受賞者となりました。

11月21日に行われた授賞式では、滞在先のベルリンから「これからも人の気持ちにまっすぐ届くような演奏を志して、良い音楽を届けたい」とのビデオメッセージを寄せました。

久末さんは12月31日のびわ湖ホールのジルヴェスター・コンサートに出演、初挑戦となる大曲、ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番を阪 哲朗指揮の大阪交響楽団と演奏します。

左から　久末 航、三日月大造知事

●びわ湖ホール　ジルヴェスター・コンサート2025　12月31日(水) 15:00開演 [大ホール]

B席4,950円　C席3,850円　青少年(24歳以下)B～C席2,200円　シアターメイツB～C席1,100円　※SS席、S席、A席は取扱終了　チケット発売中

びわ湖ホールプロデュースオペラ

プッチーニ作曲 歌劇『トゥーランドット』

新制作

連続エッセイ Vol.3 上演に寄せて

魅力的なキャストに期待が集まる

毎日新聞元学芸部長　濱 弘明

●初の公募オーディションによってキャストが決まる

びわ湖ホール28作目の「プロデュースオペラ」は、実に11年ぶりのイタリア人作曲家のオペラとなるプッチーニの「トゥーランドット」を取り上げる。近年はワーグナーの「ニーベルングの指環」（びわ湖リング）をはじめドイツ語圏の大作を次々と上演して全国にその名をとどろかせた「西日本のオペラの殿堂」が、大規模改修による休館を控えた集大成の場で、声楽の比重がより高いイタリアオペラに回帰した。それは「声楽家を育てる劇場」という若杉 弘・初代芸術監督の時代から連綿と引き継がれたコンセプトを顧みれば、ある意味必然の選択だ。

初めて実施した公募オーディションには総勢227人が挑戦し、ダブルキャストで計15人の出演者が決まった。病気療養のためカラフ役での出演がかなわなかった清水徹太郎を含めると、「びわ湖ホール声楽アンサンブル」（ＢＶＥ）の新旧メンバー7人が名を連ねたことは特筆に値する。2009年にトゥーランドットを上演した際には、ピン、パン、ポンと役人の4人だったことと比較すると大きな躍進だが、この間のＢＶＥの成長ぶりを考えれば自然な成り行きではなかろうか。

●新鋭と中堅、ベテラン同士という好対照の主役たち

個別の配役を見てみよう。

トゥーランドットとカラフは一方が新鋭～中堅、もう一方がベテラン同士という好対照の組み合わせになった。

7日の題名役・谷　明美（ミョンミ）は役どころ同様、謎に満ちた「知られざるソプラノ」かもしれない。2023年、日生劇場で日本初演されたケルビーニ「メデア」（園田隆一郎指揮）で主役のカバーとして万が一に備えた実績は、大オーケストラを向こうに回して場を支配する強靭な声が求められるトゥーランドットへの適性の裏付けともなる。ボリュームのある美声を武器に多くの舞台で主役を務めるテノール宮里直樹との「謎解き対決」が実に楽しみだ。

8日の並河寿美と福井 敬は2009年も同じ役で出演した。平成から令和へ、四半世紀にわたり日本のオペラ上演を支えてきたトップ歌手でありながら、パワフルさを失わない声で大ホールの空間を満たすことだろう。並河はレハール「メリー・ウィドウ」（2025年）でハンナを歌い、福井はオペラのみならず「びわ湖ホール四大テノール」の公演にもゲスト出演するなど、ファンには馴染みの顔でもある。

カラフに寄り添うリューは、この劇場の特性を体現したキャスティング。吉川日奈子（7日）はIna Yoshikawaとしてドイツを拠点に活躍する。びわ湖リングの「ジークフリート」（2019年）で森の小鳥として招かれて以来、プロデュースオペラの常連となり、R. シュトラウス「ばらの騎士」（2024年）での可憐なゾフィー役も記憶に新しい。船越亜弥（8日）はＢＶＥメンバーで初めて日本音楽コンクール（2021年）の1位に輝いた。NHKニューイヤーオペラコンサート（2024、25年）や沼尻竜典が指揮する神奈川フィルハーモニー管弦楽団の「ラインの黄金」（2025年）に出演するなど、ワーグナーが歌えるスケールが大きなソプラノとして期待を背負う。

●びわ湖ホール声楽アンサンブルの専属メンバーも重要な役を担う

ティムールは日本を代表するバスの1人、妻屋秀和（7日）とＢＶＥ入団3年目の西田昂平（8日）が歌う。西田は、25年のメリー・ウィドウでミルコ・ツェータ男爵を任されるなど進境著しい。

重苦しい筋立ての本作において、音楽の躍動感とコミカルな所作で一種の解毒作用をもたらすのが、ピン、パン、ポンの3大臣だ。7日は傑出した性格派バリトンとして国内外で活躍を重ねてきた晴 雅彦と与儀 巧、中井亮一という熟達のトリオ。8日はコルンゴルト「死の都」（2025年）のフリッツ役で見事な「ピエロの歌」を披露したＢＶＥソロ登録メンバー迎 肇聡と、専属団員の福西 仁、奥本凱哉による息の合ったドタバタが楽しめそうだ。

舞台上で最初に声を上げ、劇場全体をグロテスクな物語の世界に巻き込むのは、謎解きの「掟」を告知する役人だ。ＢＶＥソロ登録メンバーの市川敏雅（7、8日）は艶のある低音と凛とした立ち姿で活躍の場を海外にも広げており、与えられた役割を存分にこなしてくれるだろう。

トゥーランドットの父アルトゥムは、しばしば「レジェンド枠」に位置づけられる。大野徹也（7日）は和製ヘルデンテノールとして名をはせ、1980年代、90年代には若杉や朝比奈 隆の指揮で「リング」のジークフリートを歌った。林 誠（8日）は若杉、小澤征爾らと共演を重ね、朝比奈が指揮するマーラー「大地の歌」の録音も残されている。

ドイツの歌劇場の「アンサンブル」を参考に、開場半年前の1998年3月に発足したＢＶＥを核としたびわ湖ホールのオペラ上演システム。若杉が種をまき、2代目芸術監督・沼尻がさらなる進化を促し、3代目の阪 哲朗は「世界のスタンダード」を掲げて路線を引き継いだ。今回のトゥーランドットは平成以降の日本のオペラ上演史を振り返るとともに、華やかな未来を展望できるまたとない機会になるはずだ。

3月7日（土）　3月8日（日）

谷 明美（トゥーランドット）

並河寿美（トゥーランドット）

宮里直樹（カラフ）

福井 敬（カラフ）

妻屋秀和（ティムール）

西田昂平（ティムール）

吉川日奈子（リュー）

船越亜弥（リュー）

関連企画

■オペラ講座
『トゥーランドット』（全2回）

第1回　2026年1月31日（土）14:30～16:30
第2回　2026年2月15日（日）14:30～16:30
講師：東条碩夫（音楽評論家）
会場：コラボしが21 3階大会議室
2回通し券2,200円
1回券（当日残席がある場合のみ販売）1,650円
自由席　チケット発売中

■プレトーク・マチネ

2026年2月23日（月・祝）
［中ホール］10:30～12:00
出演：阪 哲朗（指揮者）、栗國 淳（演出家）
無料：事前申込み不要
※詳しくはびわ湖ホールホームページへ

■オペラ・ワークショップ

2026年3月8日（日）10:30～［大ホール］
出演：栗國 淳（演出家）ほか
参加費：1,000円（公演チケット提示の方は無料）

びわ湖ホール プロデュースオペラ

プッチーニ作曲 歌劇『トゥーランドット』（全3幕・イタリア語上演、日本語字幕付）

2026年3月7日（土）・8日（日）　両日とも14:00開演［大ホール］

指揮：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）　演出：栗國 淳
管弦楽：京都市交響楽団　合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル、「トゥーランドット」合唱団　児童合唱：大津児童合唱団

S席20,900（19,800）円　A席18,700（17,600）円　B席15,400（14,300）円
※SS席、C席、D席、E席は取扱終了　U30席（30歳以下）3,300円　U24席（24歳以下）2,200円

びわ湖ホール長期休館についてのお知らせ

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは、滋賀県による大規模改修工事が行われるため、令和8年（2026年）7月1日（水）から令和10年（2028年）2月末（予定）まで全館休館いたします。休館中は、文化産業交流会館や県内の文化ホールと連携を図りつつ、県内外での声楽アンサンブルの活動をさらに拡充するほか、休館中だからこそできる様々な取り組みを検討しています。

「びわ湖ホール友の会」会員募集中

長期休館中の友の会制度の取り扱いについて

今、ご入会いただくと、会員期限を一律、令和１０年（2028年）3月末までとさせていただきます。令和8年度（2026年度）、令和9年度（2027年度）の年会費が無料となり、大変お得です。

一般会員

チケットの優先・優待販売や無料郵送、公演情報のご案内、館内レストランサービス、提携ホテルの利用割引などの特典・サービスを提供いたします。

年会費　2,500円（税込）

<お問い合わせ> びわ湖ホールチケットセンター
TEL.077-523-7136

サポート会員

一般会員のサービスに加え、主催公演へのご招待、オペラ公演のゲネプロ（総稽古）へのご招待など、お得にお楽しみいただけます。

年会費　一口につき10,000円（税込）

<お問い合わせ> びわ湖ホールチケットセンター
TEL.077-523-7136

特別会員

びわ湖ホールの舞台芸術に関する事業に賛同し、これを支援してくださる企業・個人様向けの会員制度です。

□主催公演へのご招待　□チケット優先予約・無料郵送　□ゲネプロへのご招待
□情報誌やホームページへの会員名掲載　□メインロビーへの会員名掲示　など

詳しくはホームページをご覧ください。

年会費　一口につき100,000円（税込）　入会金不要　<お問い合わせ> びわ湖芸術文化財団 法人本部 営業部　TEL.077-523-7140

《特別会員》のみなさま

合同会社あさぎり／アマノマネジメントサービス株式会社／綾羽株式会社／新木産業株式会社／株式会社アルファス／一圓テクノス株式会社／いなみ矯正歯科／岩佐益男／上原恵美／宇髙節子／エアスペンサー株式会社／株式会社栄光社／NTT西日本株式会社滋賀支店／近江工業株式会社／近江鍛工株式会社／大岸 実／大谷 厳公認会計士事務所／大津商工会議所／おかもと眼科クリニック／株式会社奥田工務店／小倉美佐子／オリックス・ファシリティーズ株式会社滋賀支店／河津恵子／株式会社関西みらい銀行／北村クリニック／株式会社 木の家専門店 谷口工務店／木村水産株式会社／錦職昭彦／株式会社きんでん滋賀支店／株式会社キントー／草津電機株式会社／granlumieグランルミエ／KKゴルフクラブ／京滋舞台芸術事業協同組合／京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社 琵琶湖ホテル／甲賀高分子株式会社／小高得央／株式会社コングレ／株式会社笹川組／株式会社佐藤総合計画関西オフィス／三精テクノロジーズ株式会社／株式会社しがぎん経済文化センター／株式会社滋賀銀行／滋賀近交運輸倉庫株式会社／滋賀県信用金庫協会／滋賀県信用保証協会／滋賀ヤサカ自動車株式会社／株式会社自然総研／株式会社清水屋呉服店／株式会社十字屋／公益財団法人秀明文化財団／株式会社昭和バルブ製作所／株式会社JOJI STABLE／スカイ カナダ留学／株式会社スマイディア／学校法人純美禮学園／成安造形大学／瀬田医院／ダイハツ工業株式会社滋賀（竜王）工場／株式会社ダイフク滋賀事業所／大和証券株式会社京都支店／髙坂哲夫／タカヒサ不動産株式会社／髙谷トマト／ちばレディースクリニック／塚本社会保険労務士事務所／株式会社ツジトミ／株式会社DGコミュニケーションズ／寺田健治／株式会社天下一品／トヨタモビリティ滋賀株式会社レクサス大津／鳥越久里／中川道子／西川 望／日新薬品工業株式会社／日本生命保険相互会社／日本ソフト開発株式会社／日本メンテナンス株式会社／日本メンテナンス株式会社大津支店／野村證券株式会社大津支店／羽泉正浩／バウ・クリエイト株式会社／公益財団法人ハンバ文化振興財団／株式会社日立建機ティエラ／日野精機株式会社／株式会社ビルディング・コンサルタントワイズ／びわ湖大津プリンスホテル／琵琶湖汽船株式会社／びわ湖放送株式会社／ふくた診療所／藤井絢子／兵神装備株式会社滋賀事業所／ホテルブルーレーク大津／株式会社ホリゾン／増山公昭／株式会社松村電機製作所関西支店／豆藤／三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社／宮川印刷株式会社／music square 芝蘭会／村上孝弘／望田法律事務所／山科精器株式会社／ヤマハサウンドシステム株式会社大阪営業所／山本英司／税理士法人山本会計／ヤンマーホールディングス株式会社／横田昌和公認会計士事務所／立命館守山中学校・高等学校／龍谷大学吹奏楽部／ロマン楽器株式会社／株式会社ワコール／和田厚幸／渡辺朗夫

（五十音順・敬称略・一部非掲載／2025年12月1日現在）

びわ湖ホールオフィシャルスポンサー：株式会社 叶 匠寿庵

びわ湖ホールオフィシャルスポンサー：株式会社平和堂

びわ湖ホールオフィシャルスポンサー：東レエンジニアリング株式会社

シアターメイツ会員募集中

6歳～18歳なら誰でも入会可！　年会費無料

シアターメイツは子どもたちに気軽に舞台芸術を楽しんでいただく会員制度です。シアターメイツ優待公演は青少年チケット料金の約半額でお楽しみいただけます。舞台芸術を“生”で観て、聴いて、心を育む体験をぜひ！

ミミ印の公演はシアターメイツ優待公演です。

ご入会方法など詳しくはホームページをご覧ください。

びわ湖ホール 舞台芸術基金

～舞台芸術へのご寄付をお待ちしています～

皆さまから頂戴したご寄付は、基金として大切にお預かりし、3種類の事業に活用してまいります（ご寄付の際にお選びいただけます）。

詳しくはホームページをご覧ください。

<お問い合わせ> びわ湖芸術文化財団 法人本部 営業部　TEL.077-523-7140

滋賀県立文化産業交流会館

Art journey

えいじゃに

※Art journeyからネーミングした「えいじゃに」では、「文化産業交流会館」とびわ湖芸術文化財団「地域創造部」からのイベント情報を発信します。気軽にArtの旅を楽しんでください。

北にいらっしゃい

今年もやります「北にきゃんせ音楽会」！

「県内外の方に、滋賀県北部の魅力を知っていただきたい」との思いから、昨年から滋賀県と協力して行っているコンサートです。当館の「邦楽専門実演家養成事業」を経たメンバーで結成する滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」が、県北部を訪ねてワークショップやコンサートを行います。
1月の新江州シアター（小劇場）での「北にきゃんせ音楽会」では、滋賀県の高校箏曲部と共演します。

今年の「北にきゃんせ音楽会」は、藤原道山委嘱作品初演、フレッシュな演奏など魅力満載

プロデューサー：片岡リサ（箏曲演奏家）

片岡リサ

滋賀県湖北地域には素晴らしい自然風景や歴史文化があります。「北の近江振興プロジェクト」では、米原に位置する文化産業交流会館を中心に、高島市内の小学校での箏ワークショップ、そして会館でのメインコンサートなど和楽器を通して湖北の魅力をお伝えします。湖北の風景を描いた作品「湖北物語」、また世界的尺八演奏家の藤原道山氏に今回のコンサートのために湖北をイメージした委嘱作品の初演をおこないます。伝統を守り大切にする地域ならではのコンサート、ぜひ体感しにお越しください。北にきゃんせ！

北の近江振興プロジェクト

日　時　2026年1月12日(月・祝)
14:00開演

会　場　滋賀県立文化産業交流会館
新江州シアター(小劇場)

料　金　無料(要整理券)　＊配布中

出　演　滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」(当館主宰)
箏曲ジュニア・アンサンブル(ノ)
滋賀県立大津高等学校邦楽部
滋賀県立彦根翔西館高等学校日本音楽部
滋賀県立彦根東高等学校箏曲部
片岡リサ
ゲスト(尺八)：饗庭凱山、小林鈴純

お問合せ　滋賀県立文化産業交流会館
TEL. 0749-52-5111

［プロフィール］
大阪音楽大学卒業、大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了(音楽学)。平成13年度文化庁芸術祭新人賞を最年少で受賞。第21回出光音楽賞、平成22年度大阪文化祭賞、平成23年度咲くやこの花賞、平成30年度文化庁芸術祭優秀賞など受賞。オーケストラや洋楽器とのアンサンブル、現代作品にも力を入れ、国内外で活躍している。現在、大阪音楽大学特任教授、当館の「箏曲ジュニア・アンサンブル」、「邦楽専門実演家養成事業」の講師を務める。

出演する高等学校からのメッセージ

滋賀県立大津高等学校

滋賀県立大津高等学校邦楽部精鋭13名が「星のように」を演奏します。大津高等学校は、滋賀県のシンボルである琵琶湖と比叡山を望む自然と、少し都会との調和のとれた地域で、生き生きと勉強や部活動に取り組んでいます。邦楽部は昭和58年に創部し、40年以上の伝統を受け継いで全部員がとても熱心に毎日練習に励んでいます。
本日の「星のように」は、冬の夜空に瞬く星のきらめきを、13面のお箏でさまざまに表現しています。
心を込めて演奏いたします！

滋賀県立彦根翔西館高等学校

私たち彦根翔西館高等学校日本音楽部は、彦根市内を流れる芹川のほとりにある校舎で活動しています。現在2年生3名、1年生4名の計7名で日々箏の練習に励んでいます。
部員は全員高校から箏を始めた者ばかりですが、個人練習で少しずつ弾けるようになる喜びや、皆で曲を合わせる楽しさに魅了され、これまで続けてきました。「北にきゃんせ音楽会」では、聴いていただく皆様の心に届く演奏ができればと思っています。

滋賀県立彦根東高等学校

滋賀県立彦根東高等学校箏曲部です。
私たちの学校は国宝彦根城のお堀の中にあり、彦根城の天守閣に見守られながら日々勉学と部活動に励んでいます。
「北にきゃんせ音楽会」では、1年生が「ガジュマル」を、2年生が「北国雪賦」を演奏予定です。皆さまの心に響く演奏ができるよう頑張りますので、どうぞお越しください。

祝！米田覚士（よねださとし）、「ブサンソン国際指揮者コンクール」優勝！

当館で11月23日(日・祝)に開催した「ぶんさん0歳児からのコンサート」で指揮を務めた米田覚士が、ブサンソン国際指揮コンクールにて優勝しました。このコンクールは、若手指揮者の登竜門としても知られ、これまで小澤征爾、佐渡裕、沼尻竜典、阪哲朗、沖澤のどか、などが受賞しています。米田覚士から喜びのコメントをいただきました。

2回目の挑戦となった今回のコンクールは、2か月の欧州旅行ついでに「まあ1週間だけブザンソンに寄って受けてみるか」くらいの気持ちで臨みました。優勝の瞬間もフランス語がわからず、周囲の歓声が急に大きくなり、気づけばトロフィーが手の中に。「あ、僕が優勝？」とようやくわかりました。それでも一流の指揮者を目指すうえで避けて通れない舞台だと思っていたので、本当にうれしいです。帰国すると、ご近所さんから突然声をかけられ、少し恥ずかしくてくすぐったい気持ちにもなりました。来年度からは家族の移住に合わせて拠点を海外に移す予定ですが、3年間続けてきた「ぶんさん0歳児からのコンサート」は楽しさが別格。「この指揮だけは誰にも取られたくない(笑)」と思うほどで、来年以降も機会があれば出演したいと思っています。

米田覚士

「びわ湖ミュージックコネクト」のバトン

「びわ湖ミュージックコネクト」は、キャリアを重ねた滋賀にゆかりのある音楽家が、新しい創造を未来に向けて発信していくコンサートです。9月の公演を終えた田島茂代からは感想を、3月に公演を迎える稲垣聡からは意気込みのコメントをお届けします。

2025年
9月20日(土)「びわ湖ミュージックコネクト Vol.3」
出演：田島茂代(声楽)、山岸茂人(ピアノ)

田島茂代

今回、ドイツ語によるシューベルト、シューマンなどの作曲家の作品と、日本語による山田耕筰、大中恩などの作品を、親しみやすい曲から芸術性の高い曲まで、歌曲の幅広い可能性をさまざまな方向から楽しんで頂ければという思いで選曲いたしました。中でも歌舞伎舞踊「娘道成寺」を元に作られた橋本國彦作曲「舞」では衣装も特別なものをまとい、舞いながらの演奏で、山岸茂人さんのピアノも壮大で素晴らしく、私自身にとっても大変印象に残っています。今回の演奏会は、今後の大きな励みとなりました。一つの事を長く続けている者に光を当ててくださるこの取り組みは素晴らしいと思います。本当にありがとうございました。　(田島茂代)

2026年
3月28日(土)「びわ湖ミュージックコネクト Vol.4」
出演：稲垣聡(ピアノ)

稲垣聡　©Chopaisz/Mieko TAYA

米原でのリサイタルは実に約25年ぶりでとても懐かしい想いとともに、このシリーズではこれまで素晴らしい演奏家の方々が!続々と!!出演!!!されていますので、楽しみでもあり、プレッシャーでもあります。今回はピアノの詩人と魔術師と称される"ショパンとリスト"の作品をお届けいたします。パリの社交界で出逢った二人は、人々を魅了する素晴らしいピアニストであったとともに、多くのピアノ曲を世に遺しました。同じピアニストとして音楽家としてお互い切磋琢磨した二人ですが、性格も、音楽表現も、作品の特色も、また私生活までもすべてが対照的でした。そうした二人が活躍したパリを舞台に、彼らの音楽とともに旅して頂けるような演奏会にできればと思っております。　(稲垣聡)

日　時　2026年3月28日(土) 14:00開演

会　場　滋賀県立文化産業交流会館　新江州シアター(小劇場)

料　金　一般3,000円　青少年(24歳以下)1,500円
全席指定　1/17(土)発売

お問合せ　滋賀県立文化産業交流会館 TEL. 0749-52-5111

地域創造部情報

滋賀県アートコラボレーション事業

CLOVER DREAM LIVE

詩人 上田假奈代と音楽家 鈴木潤が、守山市「マザーボード」に集まった若者たちと詩と音楽のワークショップを実施。社会的養護施設出身者を中心とした若者たちのそこで生まれた言葉を届けるライブを実施します！心のうちの自由な言葉が音楽となって羽ばたきます。

日　時　2026年2月22日(日) 15:00開演

会　場　守山市役所 多目的ホール
(守山市吉身2丁目5-22)

料　金　入場無料　※事前申込不要

お問合せ　080-4293-3087
(四つ葉のクローバー 担当：大江)

公益財団法人びわ湖芸術文化財団・甲賀市土山歴史民俗資料館 連携企画展

びわ湖・アーティスツ・みんぐる
音楽とアートでつづるおうみの民話 vol.2
「大蟹とお坊さん」
ぼくらが見て、さわって、食べて、知って、つくったこと

地域創造部は県内各地の民話をリサーチし、新曲を演奏するコンサートシリーズを行っています。2025年は甲賀市に伝わる「大蟹とお坊さん」をリサーチし、9月にコンサートを行いました。
今回の展覧会では、コンサートの会場を彩った舞台美術をご覧いただきます。子どもたちや地域のみなさんと一緒にワークショップでつくった、エネルギッシュな作品の数々をご覧ください。

期　間　2026年1月28日(水)～2月22日(日)
10:00～17:00　※休館日：月・火曜日

会　場　土山歴史民俗資料館(甲賀市土山町北土山2230)

展示構成　野田幸江(現代美術家、ハナノエン店主)

民具紹介　佐野正晴(甲賀市歴史文化財課)

料　金　入場無料・事前予約不要　お問合せ　地域創造部 TEL. 077-523-7146

地域創造部　活動報告

アートと地域のためのスモールトーク・プロジェクト

地域創造部は、文化ホールにより多様な人々が関わることを目指し、県内2カ所の拠点を中心に、「アートと地域のためのスモールトーク・プロジェクト」を実施しています。

- **旧大津公会堂**
大津のまちなかにもっと表現活動を広げるには？をテーマに、レクチャーや街歩きを実施しました。
- **愛荘町立ハーティーセンター秦荘**
外国人住民にもっと文化ホールを楽しんでもらうには？をテーマに、多言語のテーブルゲームで遊ぶ「WORLD GAME PARK」を、毎月土曜日に実施しています。

CAFE:YAKUBA

←WORLD GAME PARKの詳細はこちら(カフェ YAKUBA インスタグラムQR)

3月下旬に「アートと地域のためのスモールトーク・プロジェクト」報告書を発行し、地域創造部ホームページに掲載予定です。

季刊誌 湖国と文化　第194・冬号
特集 ヨシ・里湖の現風景～環境・文化・地域にヨシへ

国の重要文化的景観第1号「近江八幡の水郷」など、美しいヨシ群落は湖国の宝です。開発やヨシ産業の衰退などで、ヨシ原の姿は大きく変わっています。湖国の原風景・ヨシの「現風景」を伝え、未来へ継ぐ手がかりを探ります。

2026年1月1日発売予定

＜販売価格＞ 770円

＜取り扱い＞ 県内書店、公式オンラインショップ、びわ湖ホールショアターショップ、滋賀県立文化産業交流会館 など

＜お問合せ・購入申込＞
びわ湖芸術文化財団 地域創造部
「湖国と文化」 編集室
TEL.077-523-7146

「湖国と文化」194号

劇場・舞台芸術の力

2017年度よりびわ湖芸術文化財団は、びわ湖ホールと文化産業交流会館の2つの劇場を持つ財団として活動をしています。これを機にスタートしたこのコーナー。劇場に関わるさまざまな方に想いを綴っていただきます。

昭和音楽大学教授・学長補佐／東京藝術大学大学院音楽研究科非常勤講師
「日本のオペラ年鑑」編纂委員長
石田麻子（いしだあさこ）

「劇場人を創る場」としてのびわ湖ホールにはこれからも目が離せません。

1998年の開館以来、びわ湖ホール主催の大規模なオペラ公演にはほぼ毎回伺うようにしています。これまで、故若杉 弘、沼尻竜典、阪 哲朗と素晴らしい指揮者の方々が芸術監督を務め、これまで日本のオペラ界を代表するような数々の名舞台を生み出してこられました。その意味でも主催公演は毎回見逃せないからです。今、会場に伺うと真っ先に出迎えてくださるのは村田和彦現館長です。初代の赤松良子さんは残念ながら鬼籍に入られましたが、上原恵美さん、井上建夫さん、山中 隆さんと歴代の館長たちがホールそのものを温かく見守るように観客を出迎え、毎回お目にかかってお話ができるのも楽しみの一つです。

最近伺った公演は2025年7月の『メリー・ウィドウ』です。東京藝術大学大学院の教え子たちが声楽アンサンブルに現在4人所属しており、彼らが出演することもあって、ワクワクと少しのドキドキを胸に客席に座っていました。無事に舞台を務めあげたカーテンコールでの、彼らのホッとしたような表情が忘れられません。制作の方々のご苦労もいかばかりかとは思いますが、若い人たちに適切な規模の会場で大きな役を任せ、劇場でのオペラ制作を身につけた歌手たちを育てる大事なお仕事だと考えています。オペラ歌手が劇場で育つのは本来のあり方ですが、日本の劇場環境ではなかなか難しいところ。一貫して取り組むことで、人材養成を高らかに謳った劇場法の理念を実践されていると言えます。「劇場人を創る場」としてのびわ湖ホールにはこれからも目が離せません。

『メリー・ウィドウ』公演の楽屋で教え子たちと。左より有ヶ谷友輝（ダニロ役）、筆者、徳田あさひ（プラスコヴィア役）

びわ湖ホールオペラへの招待『メリー・ウィドウ』公演（2025年7月公演）

滋賀県立芸術劇場
びわ湖ホール

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15番1号
TEL.077-523-7133 FAX.077-523-7147
https://www.biwako-hall.or.jp/
びわ湖ホール 検索

チケットInformation

インターネット予約 https://www.biwako-hall.or.jp/

電話予約 チケットセンター TEL.077(523)7136

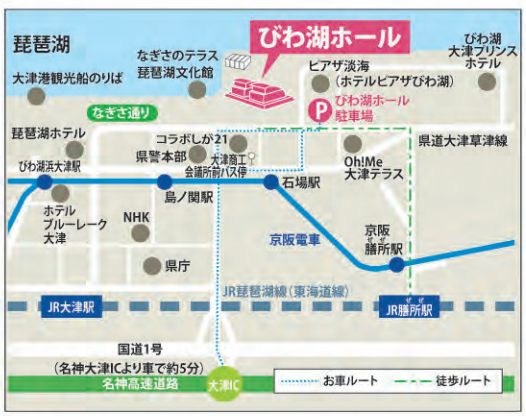
窓口販売 2階チケットセンター

10:00～19:00／火曜休館　※休日の場合は翌日。12/29、30、1/1～3は休館。ただし、チケットセンターは12/30は電話受付のみ、12/31は10:00～17:30営業。

※チケット料金は消費税込の価格を表示。　※（　）内は友の会会員料金。　※一部公演を除き全席指定。
※一部公演を除き6歳以上入場可。

【青少年割引当日券の販売】青少年割引当日券がある公演は、公演当日に残席がある場合に限り、青少年（24歳以下）の方に、半額で当日券を発売いたします。SS～E席のみ。U30・U24席は除く。※劇場窓口のみ取扱い。学生証など年齢のわかるものをご提示ください。

【シアターメイツ優待公演】シアターメイツチケットはびわ湖ホールチケットセンターのみの取扱い（電話・窓口のみ）。



〈アクセス〉

大阪から新快速で約40分、京都から約10分　名古屋から新幹線／京都駅のりかえで約60分

●JR琵琶湖線（東海道本線）「膳所（ぜぜ）」駅より徒歩約15分、または 京阪電車のりかえ「石場」駅より徒歩約3分
●JR琵琶湖線（東海道本線）「大津」駅より徒歩約20分

《駐車場のご案内》有料849台 24時間営業　料金：7:00～23:00　1時間毎210円（4時間経過後1時間毎110円）
23:00～ 7:00　1時間毎110円（時間内最大料金420円）

滋賀県立文化産業交流会館
Shiga Theatre for Cultural and Industrial Development

〒521-0016 滋賀県米原市下多良2-137
TEL.0749-52-5111 FAX.0749-52-5119 https://www.s-bunsan.jp/ 文産 検索

チケットInformation

インターネット予約 https://biwako-arts.tstar.jp

パソコン（座席選択可）、スマートフォン（座席選択不可）から24時間いつでもチケット予約・購入ができます。お支払いは、クレジットカードのご利用のほか、全国のセブンイレブン・ファミリーマートでのお支払い・チケットの受け取りも可能です。（一部公演、席種を除く）

【利用方法】①チケット予約・購入　②チケットの受取（セブンイレブン・ファミリーマート）

※お支払い、チケットの受取方法をお選びいただき、期日までにお手続きください。お支払い、チケットの受取方法により、代金の他に手数料がかかります。

電話予約、窓口販売 直接、下記までお問い合わせください。
滋賀県立文化産業交流会館 TEL.0749(52)5111
※月曜休館。月曜日が休日の場合はその翌日以降の休日でない日。年末年始（12月29日～1月3日）

〈アクセス〉

（電車でお越しの方）
JR新幹線・琵琶湖線・東海道本線・北陸本線 米原駅西口より徒歩7分

（お車でお越しの方）
北陸自動車道米原インターより約10分　または　名神高速道路彦根インターより約15分

《駐車場のご案内》360台（無料）